

飯山高校

桂雪会報

第3号

発行日
令和2年2月1日
発行人
長野県飯山高等学校
桂雪会長 関 保典
編集責任者 渡辺藤夫
印刷所 (株)足立印刷所



あいさつ

飯山高等学校同窓会 桂雪会 会長 関 保典 (飯山南・定38年卒)

今年、元号が平成から令和に変わりました。その令和元年も師走に入り、飯山の周囲の関田山脈・野沢温泉・木島平の山々は、落葉から初冠雪の季節となりました。会員のみなさま方、冬囲い・野沢菜漬けは終わつたでしょうか。ご健勝のことと拝察申しあげます。

飯山高校野球部 甲子園 出場

今年の夏は、昨年引き続き暑い夏でございました。飯山高校の校舎の建設時にクーラーを設置しておいて、つくづくよかったです。しかし、高温度の夏はさておき、それよりもっともつと暑い夏が、飯山高校に訪れて参りました。「飯山高校 野球部 高校野球全国大会 夏の大会 甲子園出場決定」という大ニュースが飛び込んできたのです。高校野球長野県大会は、第2回戦 飯山対諏訪二葉 7対1で勝利 第3回戦 飯山対都市大塩尻 4対2で勝利 第4回戦 飯山対上田 11対0で勝利 第5回戦準々決勝戦 飯山対岡谷南 6対0で勝利、第6回戦準決勝戦 飯山対上田西3対0で勝利 第7回戦決勝戦 飯山対伊那弥生ヶ丘 5対4で勝利でした。7月21日(日)

伊那弥生ヶ丘との決勝戦 延長10回裏二死一三塁から常田投手がサヨナラ打を放ち戦いに勝利、初の優勝 甲子園出場が決定しました。この長野県大会優勝の歓喜湧き上がる瞬間から、「甲子園にどうやって行くのか」という問題が出て参りました。直ちに同窓会様・PTA様・桂雪倶楽部(野球部OB会)様・野球部保護者会様・地元6市町村長様・飯山市商工会議所様・学校当局からなる「飯山高校甲子園出場実行委員会」を立ち上げました。ご寄付いただきたい「目標金額1億円」も決めました。そして、「飯山高校野球部甲子園出場に際するご支援」のお願いに取り組みました。8月9日(金)第2試合 飯山高校にとつて、初めての甲子園、対戦高校は仙台育英学園高校と決まりました。当日はバス約70台3000名余の大応援団を組んで、地元6市町村上げて、飯山高校の1勝を祈念して甲子園球場に向かいました。いよいよ試合開始です。甲子園アルプススタンドは「飯山高校がんばれ」という白一色の熱い熱い大声援熱風が吹き荒れました。しかし試合結果は、20対1 残念な惜敗です。さすが強豪 仙台育英でした。しかし、私は試合は五分五分の対等試合だったと思っています。アルプススタンドの

応援団の人も、自宅のテレビを鑑賞していた人も、汗と涙と鼻汁で顔はくしゃくしゃな一日でありました。地元6市町村住民全員が「飯山高校がんばれ」の旗に一丸となれた一日でもありました。そして8月10日、選手が飯山高校の玄関に帰って来た時、「飯山高校野球部ありがとう」の声援ラッシュがかけられました。9月下旬「飯山高校野球部甲子園出場に際する支援」のお願いの中間の状況をまとめました。募金目標金額1億円を大きく上回る1億6千万円に達しました。これは地元の自治体・企業・住民の皆様・同窓生の皆様・本校に関係する全ての皆様、「本校の生徒にがんばれ」と期待している証であると肝に銘じました。ご寄付いただいた皆様方には、一人一人御礼の挨拶を申しあげねばならないのですが、信濃毎日新聞と朝日新聞に御礼のあいさつを掲載させていただきました。ご理解いただきたいと思っております。ありがとうございました。

岳北地域の高校の将来像を考える協議会

県立高校第2期再編で旧第一通学区(飯山市・木島平村・野沢温泉村・栄村)の岳北地域の高校の将来像を考える協議会が開催されており、この会には、同窓会長は入っておりませんので、内容はよくわかりませんが、信濃毎日新聞・北信濃新聞をみて、飯山高校と下高井農林高校の存続形態が将来どのようなになるのか、関心を持っております。

飯山高校吹奏楽部が初優勝・東海大会へ

8月3〜4日伊那文化会館で開かれた吹奏

楽コンクール長野県大会 高等学校B編成の部で優勝して東海大会に出場が決まりました。これはすばらしいことだと思いますので同窓会としてもできる限り応援をしたいと思えます。

木原正徳画伯「ひとかたち(野に還る)」寄贈される

12月16日 木原正徳先生から「ひとかたち(野に還る)」(F200 油彩 2018年)という大きな作品が同窓会に寄贈されました。木原先生は、飯山市太田地区のご出身で飯山北高校から武蔵野芸術大学を卒業され、現在は東北芸術工科大学の副学長をされており、二紀会の会員でもおられます。校舎の中で生徒さんが先生の作品を直接鑑賞され、将来芸術の道に進まれる生徒さんが生まれてくれるかも期待を持っております。

最後に

10月13日 台風19号の影響により、皿川が決壊し飯山市が水害にみまわれました。

私も当日、すぐ学校を見に行つたのですが、校舎の正門前の道路は泥水が溢れておりが届いておりませんでした。飯山市内の泥片付け作業に飯山高校野球部員が貢献してくれました。ありがたかったです。被災された皆様方に心からお見舞い申しあげます。会員の皆様方 これからは、向寒の季節でございます。くれぐれもお身体を大切にされて、幸せな毎日を送られますようにご祈念申しあげてあいさつとさせていただきます。



令和元年、新たな歴史を刻む飯山高校

校長 林 秀徳

新年、明けましておめでとうございます。桂雪会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、桂雪会の皆様には日頃から本校の教育活動に対して、並々ならぬご支援ご理解を賜り御礼申し上げます。

昨年は10月の台風19号により、本校の生徒・職員の住宅も浸水などの被害に遭いました。桂雪会会員の皆様やご親戚にも被災された方がおいでかと存じます。改めてお見舞い申し上げます。本校は校舎の被災は免れたものの、第一、第二グラウンド、城北グラウンドが千曲川支流の皿川の内水氾濫により浸水しました。一日も早い修復を願っているところでもあります。JR飯山線の運休がありました。栄村では村内の高校生の通学のために、バスの運行をJR飯山線が復旧するまで行っていたり、地域の皆様もご支援もあり臨時休校や短縮授業を行う期間も最小限で済んだことに、心より感謝申し上げます。

台風の二か月前の夏、本校野球部は、第101回全国高等学校野球選手権大会に出場しました。桂雪会の皆様方より激励と称賛のお言葉とともに心温まる多大なご支援を賜りましたこと、改めて御礼申し上げます。8月9日の仙台育英高校

戦においては、真っ白な大応援団で膨れ上がったアルプススタンドは、まさに雪で覆われた「アルプス」の名にふさわしく、「雪国から甲子園へ」の夢の実現を表しているようでした。本校野球部は、甲子園で初勝利を掴むことはできませんでしたが、地域との一体感、統合の課題を克服して深まっていく絆など、勝敗を超えたとても大切なものを皆様と共有し、手に入れることができました。

さらに、この夏、本校では野球部以外にも様々な活躍がありました。吹奏楽部が高校部門B編成にて飯山高校として初めて東海吹奏楽コンクールに県代表として出場しました。また、陸上・空手両競技で高校総体全国大会出場、SSH生徒研究発表会、英語プレゼンテーションコンテスト、マスフェスタ（全国数学生徒研究発表会）など多くの生徒が全国を舞台に貴重な経験をしました。冬季には男女スキー部が妙高高原で開催される全国大会で総合優勝を狙います。

さて、桂雪会の皆様には、様々なご支援をいただいておりますが、12月には木原正徳先生より桂雪会に対して、200号の油彩の大作「ひとかたち（野に還る）」が寄贈されました。木原先生は飯山北高校出身で、現在は東北芸術工科大学の副

学長に就かれています。この秋に飯山美術館で個展が開催され、二紀展で発表された大作を中心に60点余りが展示されました。その中の一点を桂雪会に寄贈していただきましたので、本館三階に展示することで、今後は、多くの生徒や来校される方にご覧いただけることを嬉しく思います。学校内に本物の芸術を感じる空間を新たに提供していただけることに深く感謝申し上げます。

明治、大正、昭和にできた3校が平成の時代に約十年間をかけて飯山高校に統合しました。そして、令和元年に「雪国から甲子園へ」という野球部の、そして卒業生の悲願が達成し、本校は幸先のよいスタートを切りました。令和は、学校やそれを取り巻く環境が大きく変わる時代だと思えますが、桂雪会の皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いをし、桂雪会がますます発展することを祈念して私からのあいさつとさせていただきます。



同窓会名簿について

本校飯山高校は、平成19年度に1次統合として「飯山照丘高校」と「飯山南高校」が統合し、開校しました。その後平成26年度に「飯山北高校」が統合し、平成28年4月に完全統合となりました。「飯山北高校」があった場所に新しい校舎を構え「普通科」「探究科」「スポーツ科学科」の3学科が同じ学び舎でそれぞれの学科の特色を生かし日々、学業や部活動などに励んでいます。同窓会も各高校の同窓会を統合し、「桂雪会」となり飯山高校を陰から支える大切な組織として活動をおこなっています。桂雪会発足から4年目になり、支部役員が決まり、同窓会役員も2期目を迎えました。その間、かねてから計画していた同窓会名簿の作成をデータの整理を含め3年間かけて進めてまいりました。名簿作成は「株式会社サラト」に依頼し今日まで進めてきました。各高校の同窓会で発行していた同窓会名簿を1冊にまとめ最新情報の同窓会名簿になるよう努めています。昨今の社会情勢から名簿作成に様々なご意見がある中で、今回多くの会員の皆様から「桂雪会創立記念名簿」の調査にご協力いただき誠にありがとうございました。現在は、2020年1月下旬を目標に、最終校正をおこなっているところです。今回の同窓会名簿が、今後桂雪会の活動のために必要な情報源になればと考えています。

甲子園特集



統合4年目 初の「甲子園」へ

『雪国から甲子園へ』をスローガンに取り組んできた野球部が夢の切符を手に入れました。7月6日(土)に開幕した第101回全国高等学校野球選手権長野大会で、本校は2回戦で諏訪二葉、3回戦で第2シードの都市大塩尻に勝利すると、4回戦で上田、準々決勝で岡谷南を撃破、準決勝では第3シードで優勝大本命といわれた上田西に快勝したのち、伊那弥生ヶ丘との決勝戦を延長のすえ粘り勝ち、長野県代表の栄冠を手に入れました。

優勝への軌跡

■決勝

伊那弥生ヶ丘	0010030000	4
飯山	2010100001	5

■準決勝

飯山	010100010	3
上田西	000000000	0

■準々決勝

飯山	003200100	6
岡谷南	000000000	0

■4回戦

飯山	420140	11
上田	000000	0

■3回戦

飯山	200002000	4
都市大塩尻	100000100	2

■2回戦

飯山	002120200	7
諏訪二葉	000100000	1

甲子園では惜しくも初戦で敗れる結果となつてしまいましたが、夢に向かって練習を重ねてきた野球部の生徒たちは、統合し力強く進んできた飯山高校を象徴する快挙を成し遂げてくれました。

桂雪倶楽部会長挨拶

桂雪倶楽部会長 藤澤 慎一



本年度より桂雪倶楽部会長の任をいただきました藤澤慎一です(昭和50年卒)。多くの諸先輩方を差し置いて大役を仰せ

つかり身の引き締まる思いです。さて、本年度第101回全国高等学校野球選手権大会出場に際しましては、野球部OB・OGをはじめ同窓会会員、地域

の皆様方には多くのご支援・ご声援をいただき、心より厚く御礼申し上げます。

当校野球部は旧制飯山中学の1903年創部以来116年の歴史と伝統があります。その長い歴史の中で初めての事であり、令和元年に新たな歴史の1ページを刻むことができ、また多くの感動と勇気をもらいました。長年の夢を実現した現役部員の活躍には改めて喝采の拍手を送りたいと思います。

桂雪倶楽部は飯山高校野球部OB・OG会員で構成されている組織です。現役選手への支援のみならず、地域の高校野球振興と発展を目的に長野県高野連会長に始まり高野連審判部、監督、指導者、等多くの諸先輩方を輩出・支援している会でもあります。また、2003年度(100周年)からは現役選手への公式戦ユニフォームの贈呈事業も行っております。

その成果でもありますが、一昨年には長野県高野連審判部より会員の岩崎司君が派遣審判員として甲子園の土を踏みました。また、昨年度から始まったマスターズ甲子園(OB甲子園)長野県予選では準優勝となり、選抜された4名の会員が甲子園出場を果たしました。そして本年度4月「今年こそは現役の私たちが甲子園出場を果たす番です。」と大川主将が宣言した事が現実となり、まさに感無量の年となりました。

また、現在飯山高校につきましては部員が多数在籍しておりますが、周りの他校を見渡すと少子化の影響でしかるか野球人口の減少が目立ち、高校の統合とも重なり部員確保にも大変な状況であります。そんな中、昨年度より長野県高校野球OB連盟が発足し、その対応に当たることにもなりました。少年野球、中体連、現役高校野球

監督の方々とも連携して今後の事業を計画しております。今後とも笛雪会会員の皆様方のますますのご支援ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが前会長の高橋正人氏が11月にご逝去されました。高校の統合に伴い、現役野球部、OB会の統合には6年にわたり現在の桂雪倶楽部にまとまるまで大変なご苦労をされましたことに厚く御礼並びに感謝を表すとともに哀悼の意を申し上げます。

飯山高校野球部責任教師挨拶

飯山高校野球部責任教師 木村 徹



日頃より、桂雪会の皆様方からは本校野球部の活動に深いご理解とご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。加えて、今回の第101回全国高等学校野球選手権長野大会準々決勝以降からの応援団のバス輸送やスタンドからの応援、本大会出場に際しての物心両面からのご援助やご声援いただいたこと、「雪国飯山」を彷彿とさせる真つ白にしていたいただいたアルプススタンドからの大応援団に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

平成19年からの飯山照丘高校・飯山南高校が飯山高校へと統合する過程では、照丘高校の野球部単独出場と飯山南・飯山連合チームでの出場や、各校の施設面で多くの難題を抱えました。平成26年からの飯山北高校・飯山高校の二次統合の際は、連合チームの結成、1校でありながら学科ごと

にキャンパスが違う、校舎移転に伴うグラウンドの確保、南キャンパスの室内練習場の移転等、多くの問題に直面してきました。その問題に直面するたび、多くの方々からご心配やご指摘もいただきました。そのつらさに耐えかねて選手が問題行動を起こしてしまったこともありましたが、当時の選手・保護者・野球部OB・OGの方々には苦しく、辛い思いもさせてしまいました。本当に申し訳なく思っております。

それでも歴代の選手たちは、3校の良き伝統を引き継ぎながら、新たな歴史を作ろうと牛歩のごとくゆつくりと着実に土台作りをして日々練習、学校生活にと励んできました。練習試合では1年生のうちから私立高校に対する免疫力を付けようと県内のすべての私立高校とBチーム戦を行ったり、春の遠征では、埼玉・茨城県の強豪校と対戦、6月の北信越地域の遠征では甲子園常連校とも対戦してきました。この結果、徐々に土台ができて始めていったのだと思います。

選手権長野大会優勝は、一戦一戦成長していく選手の強さと出場している選手以外の女子マネージャーやベンチ入りできなかった3年生部員の献身的なサポート、スタンドで声がかかるまで応援してくれた1・2年生部員の力があつたからこそだと感じています。

新チームがスタートして早5ヶ月が過ぎようとしています。秋季大会では県大会で上田西高校に完敗でした。この悔しさをバネに来春・来夏に向け、今後ともさらなる精進を重ね、桂雪会の皆様方に恩返しができるよう日々の学校生活・練習・台風19号の災害復旧、冬季の地域貢

献等に励み、来夏の甲子園出場を目指していきたいと思っております。本当にありがとうございます。

甲子園までの道のり

野球部監督 吉池 拓弥



飯山高校野球部の劇的な甲子園までの道のりは、ベンチに入れなかった4人の選手達の物語から始まります。夏の大会開幕

の5日前、ベンチ入り選手を伝える背番号発表をおこないました。ここで名前を呼ばれないということは、大会のベンチに入れないことを意味します。3年生25人のうち4人が呼ばれませんでした。3年生にとっては、2年半の高校野球生活の全てを捧げる最後の大会です。4人も泣き崩れ、何時間もその場から動くことができませんでした。

背番号発表の次の日、「3年生引退試合」が行われました。ベンチに入れなかった4人にとつて、プレーヤーとして最後の試合です。1・2年生からの大応援を背中に受け、必死にその試合を戦ってくれました。結果は飯山高校の勝利。ある選手はホームランを打ち、ある選手は三振を奪いました。そして、4人が3年生のなかで誰よりも活躍しました。試合終了後、その4人のために3年生全員が涙を流しました。夏の大会に挑む選手達は4人の姿からあることを学びました。それは「負ける覚悟」です。これで最後だ！と心から思い、自分の力を出し切ることに専念することで、ピンチでもチャンスでも、どんな相手であろうと、焦

ることや舞い上がることなく、地に足をつけて戦うことができる、これが「負ける覚悟」です。

そんな覚悟をもった選手達は本当に強かった。自分たちからチャンスを作り、そのチャンスを得点につなげ、大きなピンチも動じず失点を防ぎました。その結果が甲子園でした。試合前には必ずベンチ裏で選手だけのミーティングがおこなわれます。ミーティングの最後には、キャプテンのお決まりのセリフで全員が雄叫びを上げて、グラウンドに飛び出していきます。「負けたら終わりの一発勝負！楽しんでいきましょう!!」

今年のチームは、自分たちのチームに起こるたくさんのドラマを、素直な気持ちと強い心で、全てを受け入れ、力に変えてきました。たくさんの人に応援され、感動を与えてくれました。この3年生達のためにも、果たせなかった目標「甲子園で勝つ」ことを後輩達が引き継がなければなりません。飯山高校野球部の快進撃はまだこれからです。

飯山高校野球部の皆様、監督様、その他の関係者の皆様へ

飯山北高校卒業生天婦

飯山北高の先輩として、まずは今回の甲子園出場に対し感謝申し上げます。

選手の皆様は、結果を気にしているとは思いますが、それは次につなげる課題とし、今回の甲子園出場が如何に、郷里の人々、卒業生等に対し偉大な喜びと感動をもたらしたのかにつき述べたいと思います。

9日朝、東京始発6時の新幹線に乗り、大阪駅で満員の阪神電車に乗り込むや、先ず「飯山高校」、「NAGANO」と表示された真っ白なTシャツに、真っ白な帽子をかぶった人がおり、そのTシャツに注目するや「飯山の方ですか？」と声を掛けられ「飯山北高出身です」と答えると、その周囲から視線を浴び、すぐ周りにいる人たちも飯山出身者であることにビックリしました。その車中で一人は「冥土への土産」と思ってたなど笑い、年配者もおられました。皆、喜びと活気に溢れた表情でありました。

9時に甲子園球場に着きましたが「1塁側特別自由席」も3塁側席もすでに売り切れで、止む無く、外野席のセンター付近に座り、第二試合の開始を待つことにしました。岩手代表の「花巻東」の試合中は周りの人は岩手の人たちかなと想像していましたが、第二試合が始まるや一変し飯山高校への声援へと変わり、周りが圧倒的に飯山勢であることが分かりました。互いの声援により、お互いに飯山出身であることが分かり、出身地のこと、北高、南高のこと等の話が周囲から聞こえました。また、真っ白に埋め尽くされたアルプススタンドに目をやる度にその純白さが感動を呼び、正に雪国飯山を象徴し、感動的なものでした。

試合中、皆の心にあつたのは上述した「感動」であり、それ故、最後に至るまで壮大で整然とした応援は途切れることはありませんでした。甲子園出場がもたらす最も大きな効果は、郷里や卒業生に与える「感動」です。本当に偉大なことが起こったものです。私ども夫婦は飯山北高を卒業したのですが、私どもを甲子園に向かわせたのは、

大阪での電車の中や、外野席で会った人たち同様に「感動」です。甲子園を初めて体験し、その感動は想像を超える大きなものでした。

雪国、飯山高校の出場は飯山市民のみならず、他の多くの人々の感動を呼び、飯山高校の純白なユニフォームは清廉潔白で、これぞ正に雪国、飯山高校を象徴するものでした。

今回の甲子園出場が郷里に対し如何に「大きな感動」をもたらしたのを知って頂きたく、一筆、書いた次第です。飯山高校野球部、監督、関係者の皆様に感謝申し上げます。

※匿名でいただいたお手紙を掲載させて頂きました。

おわりに

この度の甲子園出場に際しましては、同窓会はじめ多くの皆様より多額のご寄付を賜りました。まことにありがとうございます。ありがとうございました。おかげ様で1億6千万円あまりのご寄付を賜ることができました。選手団の宿泊交通費等の必要経費として約5千7百万円を見込んでおります。残金につきましては、次の甲子園大会への出場準備金とするほか、野球部の活動環境整備等にもあててまいりたいと考えております。桂雪会の皆様におかれましては、ご寄付だけでなく物心両面で大変なご協力をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。



甲子園のために特設されたチアリーダーたち



優勝決定後、グラウンドを行進する選手たち



県大会優勝を決め、喜ぶ選手たち



甲子園で超満員のスタンドへ御礼



甲子園での記念すべき打点1



吹奏楽部 この後すぐに東海大会へ

ユースオリンピック 2020 （スイス・ローザンヌ）

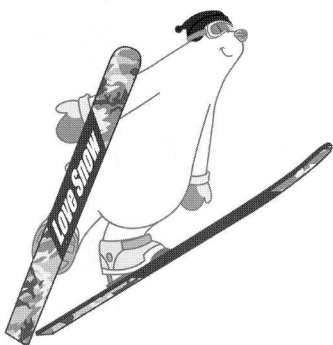
宮崎彩音（飯山高校）がノルディック女子複合で銀メダル

ローザンヌで開催された、第3回ユースオリンピックのスキージャンプ複合女子において、本校の宮崎彩音選手（2-5）が銀メダルを獲得しました。

日本代表として出場した去年の世界ジュニア選手権チャンピオンの宮崎選手は、雪不足のため大会前の練習が十分でない話す中、前半のジャンプで84メートルを飛んで3位につけました。

その後トップと20秒差で2キロコースを2周する後半のクロスカントリーに臨み、一つ順位を上げて見事銀メダルを獲得しました。

宮崎選手は来シーズンから世界選手権でノルディック複合女子が行われることについてインタビューに答え、「世界選手権に出てメダルを取りたい。将来的に正式種目になればオリンピックにも出場してメダルを取りたい」と話していました。



スキージャンプのミックス団体で銀 本校から3名が出場

ローザンヌで開催された、第3回ユースオリンピックのスキージャンプのミックス団体で、日本は銀メダルを獲得しました。男女2人ずつでチームを組み、ポイントの合計で順位を決める、スキージャンプのミックス団体。本校から宮崎彩音選手(215)のほか、久保田真知子選手(215)、西方優人選手(215)の3名が出場しました。

日本は、第1ラウンド・最終ラウンドともに全員が安定したジャンプを見せて合計で938点をマークし、銀メダルを獲得しました。



スキー部ユースオリンピック報告会にて

祝・北信越大会出場

〈春 総合体育大会〉

陸上 女子 ハンマー投・円盤投 小林幸音
登山(ワンダーフォーゲル) 女子
空手 女子組手 西澤陽菜
ソフトボール 男子

〈秋 新人戦〉

陸上 男子 円盤投げ 古田優耶
ソフトボール 男子 準優勝

祝・全国大会出場

〈夏・沖縄大会〉

陸上 女子円盤投 小林幸音
空手 女子組手 西澤陽菜

祝・全国高等学校総合文化祭 出場

〈2019 佐賀総文祭〉

器楽・弦楽部門
長野県高等学校選抜 市川太陽・前田風香
熊代陽夏詩・高橋朋花・徳田葵



支部活動リポート 東京・関東支部だより

令和元年度桂雪会東京・関東支部役員会報告

高橋 彰(高24卒)

令和天皇の祝賀パレード前日、秋晴れの11月9日(土)、桂雪会東京・関東支部役員会を東京・市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」で開催した。隔年の総会と交互に開催する卒年代表による役員会であり、早くから精鋭が続々集まってきた。

会場内のボードには、長坂邦彦氏(高6)が撮影持参された飯山高校甲子園初出場の写真・記事が貼られ、あの日の感動がよみがえる会場となった。

副支部長の阿部靖典氏(高31)の進行のもと、今秋に松本フルマラソンを完走した青井(旧姓岡村)富雄支部長(高19)からの「飯山では、飯山高校甲子園出場の明るい話題と予想外の台風被害があった。今日も懇親を深めましょう。」という開会挨拶で始まり、桂雪会本部からお出で頂いた関保典会長からは飯山高校甲子園出場の募金活動と執行状況について報告があり、「募金にあたっては、桂雪会の皆さんに大変ご協力いただき、予想以上の寄付金が集まった。今回の甲子園での応援、野球部用具購入等のほか、今後の活動支援にも活用していきたい。少子化が進むなか、今年も1年生は5クラスであり、北信地区の高校再編において、下高井農林との枠組み再検討が進んでいる。注視していきたい。」との挨拶があった。

続いて議事に入り、副支部長の高橋(高24)から、本部活動報告、役員体制、生徒の現状を説明し、また支部活動として甲子

園出場の募金に東京・関東支部として3万円を寄付したこと、来年の総会は初めて原宿・「南国酒家」で行う予定であることを報告した。さらに、阿部副支部長から会計報告があり会計監査報告は拍手で承認された。

引き続き六川裕幸氏(高34)の進行のもと、足立信一氏(高3)の乾杯で懇親の場が始まった。足立氏は野球部OBであり、野球部の100年史冊「高鳴る腕」のほか、飯山高校野球部報なども紹介された。懇談はテーブル各所で、甲子園出場がワクワクした話や台風19号による飯山市街地浸水の話など、次第に会場は話題の渦となった。その後、今回初の試みとして、支部長同様に松本フルマラソンを完走した山城弘枝氏(高34)から、甲子園で流れ、皆も初めて耳にした「飯山高校校歌」の歌唱指導があり、配られた歌詞カードの文字を追いつけながら皆で口ずさんだ。

最後は、待つてましたとばかりの飯山北高校歌「甲斐の高峰に」が会場いっぱい胸を詰まらせながら高らかに歌い上げられ、当日最年長の平野俊治氏(高2)の閉会挨拶で令和初の桂雪会役員会を終えた。

桂雪会として初めて「飯山高校校歌」が歌われたが、あの「甲斐の高峰に」ともに新しい校歌も身近なものとなるよう、北高卒業生以外の参加も期待し、本部とも連携しながら同窓生の活動拡大を目指していきたい。



【令和元年度東京・関東支部役員】

顧問 長坂 邦彦 (高6)

岡田 庸利 (高8)

支部長・本部代議員

青井 富雄 (高19)

(旧姓岡村)

副支部長・本部副会長

高橋 彰 (高24)

副支部長・会計

阿部 靖典 (高31)

会計監査

中島 謙次 (高18)

山城 弘枝 (高34)

六川 裕幸 (高34)

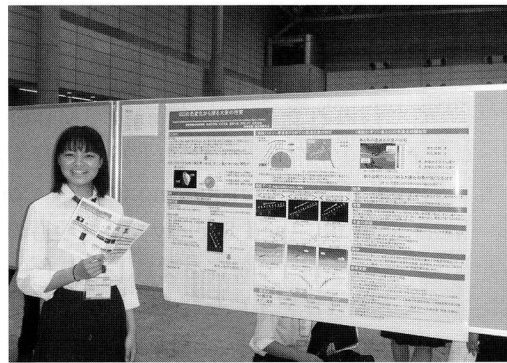
藤好しのぶ (高44)

世話人

学校の様子

◎自然科学部が「日本地球惑星科学連合大会」で奨励賞

学術団体「日本地球惑星科学連合」2019大会の「高校生ポスター発表」に応募した自然科学部の研究が奨励賞に輝き、5/26(日)に千葉の幕張メッセでポスターセッションを行いました。受賞したのは3年探究科の石村大樹くん・黒鯛七海さん・滝澤しずくさん・山本友佳さんの4人。研究テーマの「ISS(国際宇宙ステーション)の色の変化から探る大気の性質」は、一昨年の3年生の先行研究を引き継ぎ、さら考察を深めたものでした。※大会の表彰は、最優秀賞1点、優秀賞4点、奨励賞8点でした。



◎第4回飯高祭に約2800名来校

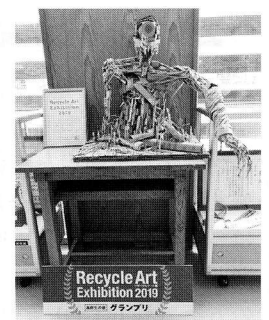
7/5(金)～7/7(日)、「灰になるまでHighになれ!!」をテーマに掲げた第4回飯高祭が開催され、昨年を上回る約2,800名の皆様に来校していただきました。初日は合唱祭・体育祭が行われ、合唱祭では講師の先生方から「これだけの合唱ができるのは素晴らしい」と高い評価をいただきました。体育祭では、クラス対抗の大縄跳び・借り物競争といった競技に加えて、今年は部活対抗リレーが行われ、陸上部が優勝しました。2日目午前にはパレマス(パレード&マスコット)がおこわれ、市内本町まで仮装パレードをしたのち、大体育館でパフォーマンスを行い、つめかけた観客からも大きな拍手が送られていました。2日目の午後から3日目にかけては一般公開となり、お化け屋敷や脱出ゲームなどのアトラクション系のクラス展に長蛇の列が作られました。また最終日の後夜祭では、ファイヤーストームが復活し、フォークダンスもおこなわれました。



◎リサイクルアート展・高校生の部で最優秀賞

～美術部・大久保智詞くん 作品：「新しい自分へ」～

7/8(月)、札幌市で開かれた「リサイクルアート展2019」で美術部の大久保智詞くん(1年)が高校生の部で最優秀賞を受賞しました。「新しい自分へ～アタラシイジブンへ～」と題した作品は、中学生から高校生に変わる自分を「リサイクル」に重ね合わせたもの。中学生の自分を古い段ボールで、高校生の自分を広告で製作し、躍動する生命感などがよく表現されていると高い評価を受けました。



◎1・2年スポ科で「キャンプ・登山実習」

7/10(水)～12(金)、スポ科1・2年生の「キャンプ・登山実習」が2泊3日の日程で笹ヶ峰キャンプ場(妙高市)を中心に行われました(「臨海実習」と隔年で実施)。初日はテント設営・ウォークラリー、2日目は火打山登山・キャンプファイヤー、3日目は野外実習として「妙高アドベンチャープログラム」(自然課題解決活動)といったメニューを仲間と協力しながらこなし、様々な技術を習得し、貴重な体験をしました。



◎吹奏楽部、県大会で最優秀賞 ～東海大会へ初出場～

8/4(日)、第59回長野県吹奏楽コンクール長野県大会・高校B編成の部(30人以下)に出場した吹奏楽部は、「鳥之石楠船神～吹奏楽と打楽器群のための神話」(曲:片岡寛晶)で最優秀賞(藤森章音楽賞)を獲得し初の東海大会出場をはたしました。B編成の大会は東海大会が最上位大会であり、今夏は野球部の応援や応援練習(県大会後半～甲子園)と並行するなかでの快挙となりました。



◎cma! で中村・湯本さんが銅賞受賞

9/1(日)、東京国際交流館で行われたcma!(Change Maker Awards・中高生のための英語プレゼンコンテスト)の本選が行われ、中村翔音くん・湯本深月さんが発表した“Research on Roof Shape: Considering Energy Consumption and Safety in Heavy Snow Areas with an Aged Society(豪雪地帯の屋根の形状と移り変わりの特性)”が団体(チーム)部門で銅賞を受賞しました。412点の応募の中から、1次選考(書類)・2次選考(ビデオ)を経て、本選ではパワーポイントを使って英語でプレゼンを行い、見事入賞しました。団体部門のテーマは「私たち×SDGs(持続可能な開発目標)」で、金賞1点・銀賞2点に次ぐ高い評価でした。



◎台風19号の猛威、市街地で浸水 ～本校もグラウンドなどが冠水する被害～

台風19号が猛威をふるい、10/13(日)の未明から深夜にかけて飯山市街地の小河川や排水路があふれ、本校北側を流れる皿川も越水し、市街地で大規模な浸水・冠水が発生しました。本校も正門南側の用水路があふれたり、城北グラウンドや陸上グラウンド、第2グラウンドなどが冠水、弓道場も床上浸水するなど大きな被害を受けました。校舎内への浸水は免れたものの、自宅が浸水被害を受けた職員・生徒も大勢おり、JR飯山線が2週間ほど不通になったこともあり、通常授業に戻ったのは翌週になってからでした(グラウンドの泥が撤去され、元の状態に戻るには時間がかかりそうです)。休校や半日授業となったこの間、多くの生徒たちがグラウンドなどの復旧や市内被災地での災害ボランティアに参加しました。あらためて被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、保護者の皆様や近隣の学校関係者の皆様など多くの方々からご支援をいただきました。本当にありがとうございました。



◎曇り空のもと、第36回強歩大会

10/11(金)、全校生徒が参加して第36回強歩大会が開かれました。台風の接近で開催が危ぶまれましたが、雨もなく予定通りに昇降口広場をスタート。第2グラウンドから千曲川左岸堤防を走り、柏尾橋を渡り、瑞穂地区を抜け、中央橋を渡り、城北グラウンドにゴールする約18kmのコース(男女同じ)に挑戦しました。男子は高藤陽樹くん(2年連続)、女子は湯本美桜さんがトップでゴールイン。2カ所の関門(チェックポイント)にはバナナや飲み物が用意され、ゴール後にはPTA有志の方々(約50名)によるあたたかい特製豚汁が振る舞われました。



◎ 2年生、3泊4日の台湾研修旅行

10/22(火)～25(金)、3泊4日で2年生が台湾研修旅行に出かけました。台風19号の影響で新幹線や飯山線が運休となるなか、バスで成田空港往復になりましたが全員無事に参加することができました。初日は、成田空港から4時間のフライトで台湾桃園空港に到着、入国手続きの後台北市内のホテルに宿泊しました。2日目の午前には各科ごと台湾の高校を訪問しました。普通科は桃園市光啓高級中学、探究科は台北市立和平高級中学、スポ科は台北市立松山高級商業家事職業学校を訪問、授業に参加したり昼食を一緒に食べたりして生徒同士の交流をはかりました。午後は中正紀念堂を訪れたあと、B&Sプログラム(現地大学生のガイドでグループ行動)で台北市内を散策し、夕食後は饒河街夜市を班別行動で楽しみました。3日目は、午前中はクラス別で、九份(「千と千尋の神隠し」にインスピレーションを与えたという情緒あふれる街)の散策・十分(天燈上げ体験)の観光、午後はコース別で「北投温泉と陽明山コース《足浴体験・温泉街散策+陽明山国家公園散策》」、「健康体験と占い横丁コース《足つぼマッサージ・台湾式シャンプー体験+占い横丁》」「淡水コース《クルーズ体験+淡水老街散策》」「有名観光スポットコース《故宮博物院+忠烈祠+龍山寺》」にわかれて研修を行いました。円卓で食べる台湾料理もおいしく、異国の地を満喫したようでした。



岳北地域の高校の将来像について

校長 林 秀徳

「岳北地域の高校の将来像を考える協議会」では、令和元年3月から8回の協議会と4地区での地域懇談会を開催しました。そこで、岳北地域の高校のあり方について協議・検討を重ね、令和2年1月に意見・提案を長野県教育委員会へ提出しました。概要は以下のとおりです。

下高井農林高校には、「素材づくり」から「調理・加工」「販売・提供」を一貫して学ぶことで、農林業等の人材育成が出来るカリキュラムや、『専攻科』を新設し、高校卒業後に地域生産者への実習や必要な資格取得のための講習など、就業に向けての実践につながるカリキュラムの構築についての提案・要望が出されました。飯山高校には、今後の学級減に対応する学科の構成と教育課程の編成等、普通科教育の特色化と魅力化を図るさらなる工夫と検討の必要性が提案されました。そして2校については、「将来的に学校規模のさらなる縮小が見込まれ2校の存続が困難となった場合は『下高井農林高校を飯山高校の地域キャンパスとして、現下高井農林高校の教育施設を活用した、下高井農林高校の地域キャンパス化』とする。

なお、地域キャンパスの名称については地域と充分協議のうえ決めていただきたい。」という形態で存続させることを要望しました。



「池川・大沼・沼田基金」

2年目の飯山フォーラム

「池川・大沼・沼田基金」は、平成30年5月18日(金)池川信夫(東京工業大学名誉教授)、大沼淳(前文化学園理事長)、沼田克雄(故人)の3人が発起人となり、飯山や周辺地域での人材育成や地域活性化への一助として設立されました。小回りが利くように、そして俊敏な対応ができるようにと同窓会の協力を得ながらも、別組織で運営しております。

これまで、飯山高校を中心に、地域の企業や個人に参加を呼びかけ、中高生や住民を対象にした左記のような講演会を開催してまいりました。

- 第1回 H30年8月3日(金) 飯山高校大講義室
講師 キッコーマン名誉会長の茂木友三郎氏
「人材育成こそ国の礎」

- 第2回 H30年11月1日(木) 飯山高校大体育館
講師 馬淵知子氏
「健康への挑戦～新しい医学の取組み～」

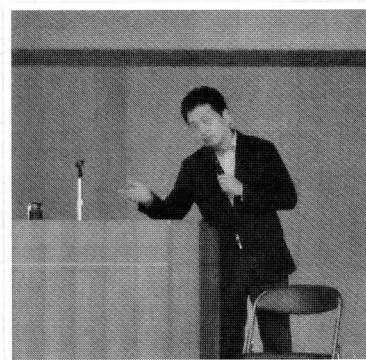
- 第3回 H31年3月9日(土) 飯山文化ホール「なちゅら」
講師 滝沢杏弥氏
「美の創造～これまで、そしてこれからの私の挑戦～」

- 第4回 R1年5月25日(土) 飯山高校大体育館
講師 水嶋智氏
「観光立国の現状と取り組み～そして飯山みゆき野のこれから～」

- 第5回 R1年7月19日(金) 飯山高校大講義室
講師 古屋和雄氏
「ことばは生きる力～求められるコミュニケーション力～」

- 第6回 R1年12月8日(日) 飯山文化ホール「なちゅら」
講師 ラシャッド・ブフラル氏
「日本とモロッコ王国と私」

- 第7回 R2年3月5日(木) 飯山高校大講義室
講師 白石ユリ子氏
「クジラから世界が見える～クジラから日本と世界の文化、社会と地域再生を学ぶ～」



水嶋智氏講演会

第4回～7回が今年度の講演会になりますが、第4回の水嶋先生の講演会は、PTAと共催し、PTA講演会も兼ねて全校生徒と保護者を中心に、観光立国日本の現状とこの地域の可能性についてお話を聞きました。詳細な資料を基に、貴重なお話をお聞きできました。

元NHKのエグゼクティブアナウンサーの古屋先生からは、局アナ時代の失敗談や経験談などを含めユーモアたっぷりな講演会をしていただきました。

モロッコ大使のブラル氏は初めての来県でした。変わりゆくモロッコの様子や日本とのつながりについてお話しいただき、グローバルな視点での講演会となりました。高校生も英語で質問をするなど、年配の方々から「時代は変わった!」という声をいただきました。

3月開催予定の白石先生は、講演会に先立って11月には飯山市公民館で鯨料理教室を開いたり、12月には被災復興の励みにとクジラ汁のふるまいをして下さったりして、飯山高生も参加させていただきました。

また、昨年3月には課題研究の活動がより活性化されるよう期待し、課題研究発表グループに賞(池川賞・大沼賞・沼田賞)を贈りました。今年も3月6日に発表会がありますので賞を準備したいと思います。

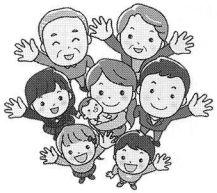
なお、趣旨に賛同し、基金にご寄付いただける方は、下記の口座に振り込みをお願いいたします。

(指定口座) ゆうちよ銀行

005704103253

(口座記号・口座番号)

池川・大沼・沼田基金
1口5千円からです



令和元年度桂雪会役員

次年度は役員改選の時期となります

職名	氏名
顧問	池川 信夫
顧問	大沼 淳
顧問	岩崎 彌
顧問	猪瀬 清徳
顧問	森 司朗
顧問	林 秀徳
会長	関 保典
副会長	宮本 衡司
副会長	内山 英樹
副会長	高橋 彰
副会長	瀧澤 俊實
副会長	吉越 英子
副会長	上松 猛
副会長	小林 厚子
副会長	太田 良夫
監事	岡田 敬幸
監事	上松 敬

飯山支部	支部長	上松 永林
	副支部長	横川 莊一
秋津支部	副支部長	村石桂太郎
	副支部長	島田 和彦
木島支部	支部長	森山 善司
	副支部長	丸山 朗
瑞穂支部	支部長	関 藤夫
	副支部長	澤木 伸一
柳原支部	支部長	増山 保範
	副支部長	岩松 義雄
外様支部	支部長	佐藤 正夫
	副支部長	木幡喜美子
常盤支部	支部長	春日 早夫
	副支部長	春日 隆
太田支部	支部長	平野 正幸
	副支部長	
岡山支部	支部長	青木 彰
	副支部長	庚 繁樹
木島平支部	支部長	井沢 清一
	副支部長	田中 康一
野沢温泉	支部長	瀧澤 俊實
	副支部長	池田 充栄
栄支部	支部長	平田 幸男
	副支部長	富井 裕昭
長野支部	支部長	森川 博
	副支部長	
須高支部	支部長	武田 芳彦
	副支部長	瀧澤 国夫
豊野支部	支部長	小林 守夫
	副支部長	大熊 文久
中野支部	支部長	米木 善登
	副支部長	原田 茂
豊田支部	支部長	大森 眞一
	副支部長	
津南支部	支部長	吉岡 典高
	副支部長	小橋 浩樹
東京関東支部	支部長	島田 哲宏
	副支部長	
東京関東支部	支部長	青井 富雄
	副支部長	高橋 彰
東京関東支部	副支部長	阿部 靖典
	会 計	阿部 靖典



ラシャッド・ブラル氏講演会



クジラ汁



池川賞

学校関係

吉越 明人

校長	林 秀徳
教 頭	倉田 慎司 スクールバス
事務長	箕口 徳夫 会計
幹 事	渡辺 藤夫 事務局長・総務・支部組織化・名簿作成・広報 (HP)・教育環境整備・桂雪アカデミー
幹 事	岩上 寿昭 事務局次長・総務・支部組織化・会報・教育環境整備
幹 事	小林 至 総務・支部組織化・教育環境整備・マイクロバス・生徒助成・クラブ支援
幹 事	小林 幸太郎 名簿作成・広報 (HP)・教育環境整備・マイクロバス・生徒助成
幹 事	丸山 大樹 会報・桂雪アカデミー・広報 (HP)・教育環境整備・生徒助成・クラブ支援
幹 事	渡辺 秀謙 スクールバス・庶務

スクールバスの運行について

同窓会の皆様からのご支援により、冬の期間(12月〜3月)通学が困難な生徒のためのスクールバスが運行しております。今年中は野・木島平ルート、木島平ルートの2路線で、約60名の生徒が利用しております。JR線沿線から遠い生徒達にとって、冬は通学方法の確保が大きな問題となっております。スクールバスによって、多くの生徒が救われております。ご支援に感謝申し上げます。